



原点

## 1. 「行是」「CSR憲章」を實踐し、「共存共栄」を追求

当行は、伝統ある近江商人の商人道徳である「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を受け継いだ、平易にして含蓄のある行是、「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を昭和41年に制定しました。

そして、この行是をCSR(企業の社会的責任)の原点とし、平成19年4月、「地域社会」「役職員」「地球環境」との3つの「共存共栄」を追求する新しい経営理念として「CSR憲章」を掲げました。

しがぎんグループの総力を結集して「健全」と「進取」の気概を発揮し、「CSR憲章」に込めた精神を貫徹することで真の「共存共栄」を追求してまいります。

近江商人の精神を受け継ぎ、CSRの原点である「行是」  
「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」

「CSR憲章」に込めた3つの「共存共栄」

### (1) 地域社会との共存共栄

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

### (2) 役職員との共存共栄

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「クリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。

### (3) 地球環境との共存共栄

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を實踐し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

## 2. 「銀行経営近代化」の歩み (P8~9ご参照)

当行は、過去10余年にわたり、「銀行経営の近代化」に

向け、先駆的に取り組んでまいりました。

当行の考える「銀行経営の近代化」とは、過去の「勘や経験」だけに頼らない、「合理的な考え方」を確立し、「自分の城は自分で守る」という「自己責任原則」を踏まえた経営、すなわち「自己責任経営」を貫徹し、「独自経営」に魂を込めることです。

大きくは3点、(1) リスク管理の高度化、(2) 「IT戦略」の積極展開、(3) 「3つのブランド戦略」(①「知恵と親切のしがぎん」、②「アジアに強いしがぎん」、③「環境を主軸とするCSRのしがぎん」)の展開です。

### (1) リスク管理の高度化

銀行業の究極の使命は、「リスクを引き受けること」にあると考えます。しかしながら、お客さまの貴重なご預金を原資としている以上、無防備にリスクを引き受けることはできません。

そのためには、①リスクの所在やその大小をしっかりと把握したうえで、②リスクに見合った金利を賦課し、③リスクが銀行の体力に比べ、一定の範囲内に収まるように全体をコントロールしていかなければなりません。

こうした認識のうえに立ち、当行は「企業格付制度」や「プライシング制度(リスクに見合った金利の適用)」など、合理的な考え方に立ったリスクコントロールに先駆的に取り組んできました。

そして、平成19年3月、新しい自己資本比率規制「バーゼルⅡ」において、より高度なリスク管理基準となる「基礎的内部格付手法」(通称「FIRB」)に地方銀行の64行中、トップグループ(5行)で承認されました。

これは、当行が自己責任原則を踏まえた高度なリスク管理のもとで、「積極的なリスクテイク」ができる新しいステージに立つことができたということであり、今後は「FIRB」を経営診断やアドバイス業務など、お取引先企業とのコミュニケーション・ツールとしても一層活用し、真の「共存共栄」を追求してまいります。

Message From The Management



## (2) 「IT戦略」の積極展開

IT(情報通信技術)はさまざまな経営戦略を実現させるうえで重要な役割を果たしています。当行は、「銀行経営の近代化」をめざし、ITを単に事務の効率化に活用するだけでなく、経営の意思決定の迅速化や、業務の高度化を強力にサポートするツールと位置づけ、先駆的にIT戦略を推進してきました。

具体的には、「イントラネット」や「営業支援システム」、「DBM(データベース・マーケティング)システム」の稼動(平成11年)、また「テレホンバンキング」(平成12年)、「融資支援システム」(平成13年)、「新国際業務システム」(平成17年)の稼動など、当行独自のシステム開発に積極的に取り組んできました。

加えて、平成18年12月、今日的なBCP(事業継続計画)の観点から、大規模な災害等にも耐えられる強力な耐震機能を備えた事務棟が完成し、さらに、今年1月には20年ぶりに「**新基幹システム**」が順調に稼動し、待望の24時間365日稼動が実現できました。

今後は、これらのITインフラを一層活用し、お客さまへの質の高い商品・サービスの提供と、経営管理のさらなる高度化に努めてまいります。

## (3) 「3つのブランド戦略」

昨秋の「郵政の民営化」をはじめ、金融機関を取り巻く環境は激変し、競争は一段と厳しさを増しています。

こうした中で、競争に勝ち残るためには、「自己責任経営」はもちろんのこと、地域の皆さまから一層信頼を得るための「**独自経営**」に磨きをかけなければなりません。

そのため、当行は、前次長期経営計画(平成16年4月～平成19年3月)で当行が掲げた「**3つのブランド戦略**」(①「知恵と親切のしがぎん」、②「アジアに強いしがぎん」、③「環境を主軸とするCSRのしがぎん」)のさらなる充実と実践に積極的に取り組んでいます。

### ①「知恵と親切のしがぎん」

FP(ファイナンシャル・プランナー)の資格を活用した「課題解決(ソリューション)」型の営業展開で、金融資産運用や相続対策などを提案する「**個人FP**」活動をはじめ、ニュービジネス支援、事業承継対策、M&A(企業の合併・買収)、などを提案する「**法人FP**」活動、さらに経営改善に取り組まれているお取引先企業への支援、FIRB行として当行独自の蓄積データに基づく「**格付コミュニケーションサービス**」の提供など、お客さまへの課題解決メニューを一層充実させ、積極的に展開しています。

### ②「アジアに強いしがぎん」

近畿の地銀で唯一の海外支店をもつ当行の**香港支店**は、今年9月に**支店開設15周年**、また**上海駐在員事務所**は12月に**開設5周年**をおかげさまで迎えます。

香港支店、上海駐在員事務所をはじめ、中国(深圳)、タイ(バンコク)などに派遣しているトレーニー(研修生)と本部「アジアデスク」ならびに各支店を結ぶ強力なネットワークで、現地でのきめ細かな情報提供や経営アドバイス、ビジネス商談会をはじめ、国内でのアジアセミナーの開催など、お客さまのアジアビジネスの展開を多面的にサポートしています。

### ③「環境を主軸とするCSR(企業の社会的責任)のしがぎん」

銀行としての本業である「金融」の役割を通じて、地球温暖化防止など、持続可能な社会づくりに貢献できる範囲はますます拡大しています。当行では、このような使命をいち早く認識し、金融機関ならではのCSRの取り組みの柱として、「**環境経営**」「**環境金融**」の充実挑戦してきました。

具体的には、前次長期経営計画(平成16年4月～平成19年3月)で初めて「地球温暖化ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の6%削減」を挑戦指標に掲げ(最終9.94%の削減を達成)、新世紀第3次長期経営計画(平成19年4月～平成22年3月)でも引き続き6%の削減に取り組んでいます。省エネ・省資源活動によるエコオフィスづくりはもちろんのこと、本業を通してお客さまが取り組まれる環境保全活動へのさまざまな金融商品・サービスの開発・

Message From The Management



©Biwako Visitors Bureau

提供を行い、地域社会の環境保全活動を支援しています。

とりわけ、お客さまの定期預金の金額に応じて、当行が温室効果ガス排出権を購入する「**カーボンオフセット定期預金『未来の種(みらいのたね)』**」(平成20年4月取扱開始)と、7月から取り扱いを開始しました「**事業者向け環境配慮型融資『未来の芽(みらいのめ)』**」は、個人や法人の皆さまからの地球温暖化防止への思いが込められたご預金を原資として、温室効果ガス削減に取り組みようとする事業者の皆さんにご融資する新商品で大変好評をいただいております。

今後とも「**お金の流れで地球環境を守る**」との思いで、当行独自の「**環境金融**」を一層充実させてまいります。

### 3. “**しみ出し**” 店舗戦略

地方銀行は地域あつての銀行です。当行は、滋賀県内はもとより、戦前に京都、大阪、戦後まもなく東京、名古屋、大垣、上野に営業拠点を築くなど、早くから広域地銀としてそれぞれの地域に根ざした営業を展開し、地域の人たちに永く愛され、親しまれてきました。

道州制や地域銀行の統合が話題を集めるなか、当行にとって何よりも大切なことは、新世紀第3次長期経営計画に掲げる「**リレーションシップ・バンキングの推進**」に全力を傾注していくことと考えます。

とくに中堅・中小の事業性お取引先を中心に「**真にお役に立てる銀行**」を徹底的に追求し、長期経営計画の柱として掲げた「**成長エリアへの経営資源の再配置**」を加速させ、「**質を伴った量の拡大**」、すなわち、メインテーマである「**リスク管理の高度化による企業価値の向上**」に一層注力してまいります。

具体的には、昨年「大阪北法人営業部(梅田支店内)」の開設や、今年2月の「宇治支店」、さらに6月の「三重法人営業部(土山支店内)」の開設や、県内での個々のマーケット特性に応じた店舗形態の見直しなどを順次進めています。

これにより、滋賀県を中心に西の京都・大阪地区から東の東海地区までの一本の強靱な営業基盤が拡充でき、営業エリアを面でつなげる、いわゆる「**しみ出し店舗戦略**」が軌道に乗り出しました。

長い歴史の中で培ってきた広域地銀としての強みをさらに活かし、「**大阪から東海地区まで一つになった経済圏の中核で、情報や資金の流れの“要”としての役割を果たす銀行**」をめざしてまいります。

### 4. 今年のキーワードは「**原点**」

当行は、平成10年の「**自己革新**」以来、毎年、しがぎんグループ全員の気合を揃えるキーワードを定めて、営業推進に取り組んでまいりました。今年10月、当行が**創立75周年**を迎える節目の年として、**今年のキーワードを「原点」**としました。

「**振り出しに戻る**」という意味ではなく、過去10余年にわたり、多面的に取り組んできた「**銀行経営の近代化**」の実績をしっかりと踏まえ、地方銀行経営の「**原点**」を再確認したうえで、さらなる「**飛躍**」を期すために「**原点**」としました。

「**原点**」に込めた思いには大きく分けて3つの視点があります。**第1は、「滋賀銀行員の原点」**。しがぎんグループの役員一人ひとりが、「**崇高な活動舞台**」としての当行にかけた思いを再認識し、自分にきびしく、新たな決意をもって、「**お客さまから信頼される行員像の確立**」に努めることです。

**第2は、「滋賀銀行の原点」**。「**自分の城は自分で守る**」という自己責任原則に基づく独自経営、すなわち「**3つのブランド戦略**」の充実により、お客さまや地域社会との対話をさらに深め、「**共存共栄**」を追求することです。

**第3は、「地球市民としての原点」**。地球温暖化問題がいよいよ待ったなしの重要な局面を迎えた今、環境保全と経済発展との両立に挑戦するため、さらなる知恵と考動で「**環境経営**」「**環境金融**」を積極的に展開していきたいと考えます。

Message From The Management

